

第5・6学年算数科学習指導案

日時 平成26年9月26日（金）2校時

児童 浜頓別町立頓別小学校

第5学年 男子4名 女子1名 計5名

第6学年 女子2名 計2名

授業者 教諭 小林 悠介

第5学年

1. 単元名（題材名）

「単位量あたりの大きさ」

2. 単元（題材）について

本単元では、2つの量の割合で表される量を扱い、単位量あたりの大きさで比較することを指導する。その導入の学習として、平均の考え方を指導する。

単位量あたりの基礎の考えは、5年生の小数のわり算の単元での「リボン1mあたりの値段」、「棒1mあたりの重さ」などを求める学習で扱ってきた。このように「1あたりの量」そのものを求める学習はしてきているが、人口と面積、ガソリンと自動車の進む道のりというように異種の2つの量が関係する場面で、どちらか一方の数値を1と考え、「1あたりの量」で比べる学習はしてきていない。本単元では、このように異種の2つの量は、一方の量にそろえて比較するという学習を行っていく。また、いくつかの数量をならした1つあたりの大きさである測定値の平均の意味も指導していく。

そこで本単元では、図などを有効に使いながら、視覚的にわかりやすい指導をしていく。また、具体的な場面を児童が想起できるように指導をしていきたい。

3. 児童の実態

算数の授業では、自分の考えをしっかりと持ち、相手に説明できる子が多い。また、少し難しい問題にも積極的に解決しようとする姿勢も見られる。

一方、5人ではあるが、学力差が激しく、定規やコンパス、ノート作りなどの基礎的な技能や意欲にも個人差がある。

そこで、本単元では、直接指導時に見通しを持たせ、全員の間接指導時の意欲と思考が継続できるような指導を重視していきたい。また、図などを使いながら、具体的な場面を想起させ、身近に感じられるような工夫をして、学力の定着につなげていきたい。

第6学年

1. 単元名（題材名）

「角柱と円柱の体積」

2. 単元（題材）について

本単元では、角柱と円柱の体積について指導する。また、不定形の立体についても、角柱や円柱の体積の考え方を活用して、およその体積を求められることも指導する。

角柱の体積の基となる考えは、5年生の直方体や立方体の体積の求める単元で学習している。また、5年生の別の単元では、角柱や円柱、さらに角柱も、底面の形によって、三角柱や四角柱と呼ぶこと、三角形や四角形などの面積も学習してきた。6年生では、円の面積や円と関連のある不定形な面積を求める学習もしている。

本単元では、それらの学習を基にして、角柱と円柱の体積を求める公式を導くまでの過程を重視して指導していく。特に底面積×高さの式の意味をしっかりと捉えさせたい。また、図や表、式、言葉などを用いて体積の求め方を考える活動も重視していきたい。

そこで本単元では、立体の模型なども活用しながら、角柱と円柱の底面積と高さについて視覚的に捉えさせていきたい。また、既習事項の図形の面積を児童が想起できる工夫もしていきたい。

3. 児童の実態

算数の授業にまじめに取り組もうとする姿勢が見られる。二人で教え合いながら、学習を進める場面も見られる。

一方、自分にとって少し難しい問題があるとすぐに意欲が低下し、思考が停滞する場面も見られる。また、算数に苦手意識をもっており、既習の面積の計算などを正確に求めることにも時間がかかる場合がある。

そこで、本単元では、様々な立体の模型も使いながら、体験的に角柱や円柱の立体に親しませていきたい。また、小わりなどして、意欲や思考が持続できるような声かけをしていきたい。

4. 研究主題との関わり

平成 25 年度から平成 27 年までの 3 年間は、複式学級における算数科の授業づくりに焦点をあてて、以下の研究主題を設定し、取り組んでいる。(1/3 年次)

「**学び方を身につけ、見通しをもって意欲的に学ぶ子どもの育成**」
～複式学級における算数科授業づくりを通して～

仮説 1 算数科において系統的な学び方を職員間で共有化し、学ぶ楽しさを実感できるように指導方法を工夫することで、学び方を身につけ、課題を意欲的に解決できる子どもに育てることができるであろう。

【研究内容 1】指導方法の工夫と学び方の習得

①「間接指導」の充実を図る「直接指導」の工夫（1 年目重点）

・問題提示、発問、指示、板書の工夫、ノート指導

②「わたり」「ずらし」の工夫

・自学自習や学習リーダーによる学習の工夫（1・2 年目重点）

仮説 2 算数科において、考え・交流する場面を効果的に設定することで、他者の意見から、自分の意見を高め、学力の定着を促すことができるであろう。

【研究内容 2】指導場面の工夫と定着の促進

①系統的な学び方の共有化と指導（1・2 年目重点）

・リーダーによる自主的な学習の系統化

②定着を図り、考えを広げるためのまとめの充実

・まとめを中心に考えた授業づくりの工夫（2・3 年目重点）

仮説 3 算数科において、目標や目指す子ども像を明らかにし、適切に評価をすることで、何事へも意欲的に取り組む姿勢を育てることができるであろう。

【研究内容 3】教育課程と授業の改善

① 子どもの成長をイメージした算数や特別活動への取り組み（2 年目重点）

・算数や行事で目指す子ども像への手立てと成果の確認

② 授業評価・各種学力調査の授業改善への活用（1 年目重点）

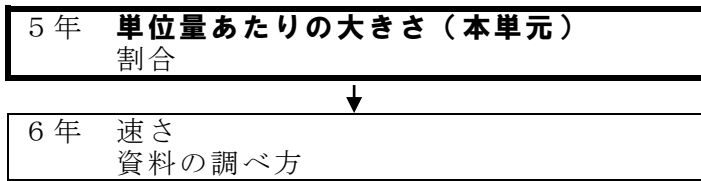
・授業評価、学力検査の分析と交流、授業への活用

③授業に生きる研修の充実

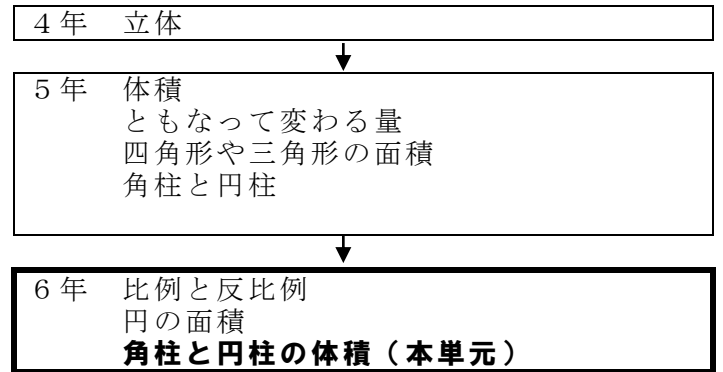
	5 年生	6 年生
仮説 1	<ul style="list-style-type: none"> 問題提示から課題までの指導過程で、既習や児童の感覚との違い、児童の生活体験を想起させて、課題解決に向けての意欲を持たせる。 問題提示では、児童の言葉を引き出し、課題解決のための見通しや必要感を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 間接指導時に、学習活動への意欲が持続できるように、直接指導時には、図や教具などを活用しながら、課題解決の見通しを持たせる。 間接指導時にも小わたりを取り入れながら、自学自習での学習活動への意欲を持続させる。
仮説 2	<ul style="list-style-type: none"> 個人で考えた意見を班で交流したり、ホワイトボードにまとめて学年全体で交流したりする場面を設ける。 班で発表する時には、図や式などを使い、相手にわかりやすく伝える意識を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを立体の模型やホワイトボードを使って相手にわかりやすく伝える場面を設ける。 相手の意見を聞き、自分の考えとの違いや自分の考えが深まるような姿勢を促していく。
仮説 3	<ul style="list-style-type: none"> 1 単位時間の授業の中で、目指す子ども像に合致したり、それにつながるような行動ができた時にはしっかり褒めて、教師の価値観を伝えるとともに、子どもの意欲を引き出す。 単元の学習終了時に、単元の授業評価を行い、次単元からの授業や朝学習、家庭学習に生かしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 単位時間の授業の中で、目指す子ども像に合致したり、それにつながるような行動ができた時にはしっかり褒めて、教師の価値観を伝えるとともに、子どもの意欲を引き出す。 単元の学習終了時に、単元の授業評価を行い、次単元からの授業や朝学習、家庭学習に生かしていく。

5. 単元の学習の関連と発展

【5年】



【6年】



6. 単元の目標

<第5学年> ○平均の意味について理解し、資料から平均を求めることができる。

○平均の考えを用いて問題を解決することができる。

○単位量あたりの大きさの意味がわかり、単位量あたりの大きさを表したり、比べたりすることができる。

<第6学年> ○角柱と円柱の体積の求め方を考える。

○角柱と円柱の体積の公式について理解し、用いることができる。

○身のまわりにある立体について、概形をとらえて、およその面積を求めることができる。

7. 単元の評価規準

<第5学年>

関心・意欲・態度	数学的な考え方	技 能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ 妥当な測定値を求めるために平均を用いるよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとしている。 ・ 異種の2つの量の割合でとらえられる人口密度などを、単位量あたりの大きさなどを用いて数値化したり、それらを進んで問題解決に生かしたりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身のまわりにある事柄について、平均の考えを用いて考察している。 ・ 異種の2つの量の割合でとらえられる人口密度などを比べる際、人口と面積が比例の関係にあることなどをもとに考え、数直線や図、式を用いて表し、比べている。 ・ 異種の2つの量の割合でとらえられる人口密度などの比べ方を振り返り、単位量あたりの大きさをもとに比べるなど、比べ方を一般的にまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 妥当な測定値を求めるために平均を用いることができる。 ・ 異種の2つの量の割合でとらえられる人口密度などを求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ大きさの数量にならずことでより妥当な数値が得られる場合は、測定値を平均するとよいことを理解している。 ・ 異種の2つの量の割合でとらえられる人口密度などは、2つの量を両方とも考えに入れないと比べられないことや単位量あたりの大きさを用いるとよいことを理解している。 ・ 1㎡でそろえて考えたいとき、数値が大きいほうが混んでいるととらえるなど、人口密度などの量の大きさについての豊かな感覚をもっている。

< 第 6 学年 >

関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・身のまわりにあるものの体積を調べたり、それを活用したりしようとしている。 ・角柱、円柱の体積の公式を導きだそうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・角柱や円柱の体積について、面積の求め方をもとに類推するなどして、図や式を用いて答えを求めたり、体積の求め方を振り返り、公式を導きだしたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・角柱、円柱の体積を公式を用いて求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な辺の長さを測定することで、角柱、円柱の体積は計算によって求めることができることを理解している。 ・身のまわりにある立体について、その概形をとらえることでおよその体積を求めることができることを理解している。

8. 指導計画

< 第 5 学年 > (1 3 時間 本時 6 / 1 3)

時数	目標	学習活動	毎時の具体的な評価規準			
			関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
1	①平均の意味と求め方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5 個のオレンジから作ったジュースの量をならすこととおして、平均の意味を知る。 ・ 平均を計算で求めるしかたを考える。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 平均を計算で求めるしかたを考えている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ いくつかの数量をならした値としての平均の意味を理解している。
2	②平均から総量を求めることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 個の平均と個数から、総量を求める。 			<ul style="list-style-type: none"> ・ 平均と個数から合計を求めることができる。 	
3	③0があるときの平均の求め方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学級文庫の1日の利用者数の平均を求めることとおして、資料の中に0がある場合の平均の求め方を考える。 ・ 平均で表すと人数なども小数になることを知る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の中に0がある場合の平均の求め方を考えている。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際には小数が使えない場面でも、平均の値としては小数で表すことがあることを理解している。
4	④平均を利用して概測する方法について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩幅の平均を用いておよその距離を測るしかたを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平均を用いるよさに気づき、身のまわりの事象について活用しよ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩幅の平均を用いておよその距離を測るしかたを考えている。 		

			うとしている。			
5	⑤小単元の練習をする。 [かぼちゃ売り] ・値段の異なるかぼちゃの平均を求めて均一の値段で売る場面で、平均の求め方の誤りについて考える。	・「平均」の練習			・平均を求めることができる。	
6 (本時)	⑥単位量あたりの大きさの意味と求め方を理解する。	・エレベーターの混みぐあいとをとおして、混みぐあいは、1㎡あたりの人数や1人あたりの面積で比べられることを知る。		・混みぐあいの比べ方を、単位面積あたりや、1人あたりの大きさの考えなどを用いて考えている。		・混みぐあいの比べ方や表し方を理解している。
7	⑦混みぐあい以外の単位量あたりの大きさで比べられる場面について理解する。	・2つの畑の面積とじゃがいもの収穫量から、どちらの畑がよくとれたかを単位量あたりの大きさを求めて比べる。		・単位量あたりの考えを用いて、異種の2つの量の割合でとらえられる数量について、比べ方を考えている。		・異種の2つの量の割合でとらえられる数量の比べ方や表し方を理解している。
8	⑧単位量あたりの大きさから未知の数量を求めることを理解する。	・1Lで16km走る自動車について、9Lで走れる道のりを求める。		・問題場面を数直線や図などを用いて表して考えている。	・単位量あたりの大きさの考えを用いて、問題を解決することができる。	
9	⑨単位量あたりの大きさから未知の数量を求めることを理解する。	・1Lで16km走る自動車について、88km走るのに必要なガソリンの量を求める。		・問題場面を数直線や図などを用いて表して考えている。	・単位量あたりの大きさの考えを用いて、問題を解決することができる。	
10	⑩人口密度の意味と求め方を理解する。	・2つの市の混みぐあいを比べることをとおして、人口密度の意味と求め方を知る。			・人口密度を求めたり比べたりすることができる。	・人口密度の意味を知り、表し方や比べ方を理解している。
11	⑪小単元の練習をする。	・「単位量あたりの大きさ」の練習			・単位量あたりの大きさを求めたり、具体的な問題を解決した	

					りすることができる。	
12	⑫身のまわりの事象を数理的にとらえて、生活の改善に生かすことを考えることができる。	・水を出しっぱなしにしたときに流れた水の量の記録から、平均を用いて水を節約できる量について推察する。		・身のまわりにある事柄を、平均の考えを用いて考察している。		
13	⑬単元のまとめ		単元のまとめ			

<第6学年> (6時間 本時 2 / 6)

時数	ねらい	学習活動	毎時の具体的な評価規準			
			関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
1	①底面が長方形の四角柱の体積の求め方を考えることができる。	・底面が長方形の四角柱（直方体）で、高さを1cmずつ変えて高さとの関係性を調べる。	・四角柱の体積を調べようとしている。	・四角柱を直方体と見ることによって、四角柱の体積の求め方を考えている。		・直方体の体積＝底面積（縦×横）×高さを理解している。
2 (本時)	②三角柱の体積の求め方を考え、角柱の体積の公式を理解する。	・三角柱の体積の求め方を考える。角柱の体積の公式を知る。		・三角柱の体積の求め方を前時の学習をもとに考え、公式を導きだしている。		・角柱の体積の公式を理解している。
3	③円柱の体積の求め方を考え、円柱の体積の公式を理解する。	・円柱の体積の求め方を考える。円柱の体積の公式を知る。	・円柱の体積を調べようとしている。	・角柱の体積の求め方をもとに、円柱の体積の求め方を考えている。		・円柱の体積の公式を理解している。
4	④既習事項の練習をする。	・p. 2～5の練習			角柱や円柱の体積を求めることができる。	
5	⑤およその形をとらえて体積を概測することを理解する。	・ロールケーキを、およそ四角柱とみたり、円柱とみたりして、概形をとらえて体積を求める方法を考える。	・概形をとらえて、既習の公式を活用しておよその体積を求めようとしている。			・概形をとらえて、およその体積を求めるしかたを理解している。
6	⑥単元のまとめ		⑥単元のまとめ			

9. 本時について

第5学年

- (1) 本時の目標
 ○ 単位量あたりの大きさの意味と求め方を理解する。
- (2) 本時の展開 * (別紙)
- (3) 評価
 ○ 混みぐあいの比べ方を，単位面積あたりや，1人あたりの大きさの考えなどを用いて考えている。(数学的な考え方)
 ○ 混みぐあいの比べ方や表し方を理解している。(知識・理解)

第6学年

- (1) 本時の目標
 ○ 三角柱の体積の求め方を考え，角柱の体積の公式を理解する。
- (2) 本時の展開 * (別紙)
- (3) 評価
 ○ 三角柱の体積の求め方を前時の学習をもとに考え，公式を導きだしている。(数学的な考え方)
 ○ 角柱の体積の公式を理解している。(知識・理解)

< 第5学年 >

9 / 26 (金) p96

⑧ 単位量あたりの大きさ

問題 どのエレベーターが一番こんでいるでしょうか。

エレベーターの面積と乗っている人数

	面積(m ²)	人数(人)
1号機	6	18
2号機	6	16
3号機	5	16

課題 面積も人数も異なるこみぐあいの比べ方を考えましょう。

1 班の考え

2 班の考え

答え 3号機のほうが混んでいる。

まとめ こみぐあいは，1m²あたりの人数など単位量あたりの大きさを比べることができる。

< 第6学年 >

9 / 26 (金) p3

⑧ 角柱と円柱の体積

問題 三角柱の体積を求めましょう。

図を掲示

課題 三角柱の体積の求め方を考えましょう。

魅羽音さんの考え

波花さんの考え

答え 36 cm³

まとめ 三角柱の体積 = 底面積 × 高さ

(2) 本時の展開

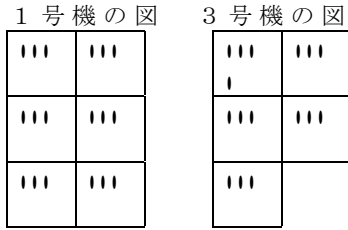
第5学年 6 / 13時間		第6学年 2 / 6時間													
過程	学習内容 学習活動(・)	教師の働きかけ 発問● 評価★	学習内容 学習活動(・)												
つかむ 10分	<p>・日付, 単元名をノートに書く</p> <p>【仮説1】 問題提示から課題までの指導過程で, 既習や児童の生活体験を想起させて課題解決に向けての意欲を持たせる。</p> <p>問題 どのエレベーターが一番こんでいるでしょうか。</p> <table border="1"> <caption>エレベーターの面積と乗っている人数</caption> <thead> <tr> <th></th> <th>面積(m²)</th> <th>人数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1号機</td> <td>6</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>2号機</td> <td>6</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>3号機</td> <td>5</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table> <p>・問題を把握する。 「『混んでいる』とは, ごちゃごちゃしていることです。」 「『混んでいる』とは人がたくさんいること」 「1号機と2号機が比べられる。」 「1号機です。」 「面積が同じだから, 人数が多い1号機のほうが混んでいる。」</p> <p>2号機 作業前の図 作業後の図</p> <p>「ならしている。」 「平均を求めている。」</p> <p>3号機 作業前の図 作業後の図</p> <p>「2号機と3号機は, 人数同じだから, 面積の少ない3号機のほうがこんでいる。」 「比べられない。なぜなら, 面積も人数も違うからです。」</p> <p>課題 面積も人数も異なるこみぐあいの比べ方を考えましょう。</p>		面積(m ²)	人数(人)	1号機	6	18	2号機	6	16	3号機	5	16	<p>・前時の復習を行わせる。</p> <p>・前時の四角柱の復習を行うことで, 本時に既習事項を生かせるようにする。</p> <p>●「混んでいる」とは, どういうことですか。 ●3つの中ですぐに比べられるのはあるかな? ●1号機と2号機は, どちらが混んでいますか。 ●どうしてそう思ったの。 ●他に比べられるのはあるかな。 ●2号機の様子を比べられる図に直してみましよう。 ●これって, どんな作業をしているのかな。 ●式に表すと?</p> <p>●2号機と3号機は, どちらが混んでいますか。 ●1号機と3号機を比べられますか。</p> <p>【仮説1】 ・課題提示では, 課題解決ための見通しや必要感を持たせる。 ●1号機と3号機のどちらが混んでいるか比べ方を考えましよう</p>	<p>・日付, 単元名をノートに書く。</p> <p>・前時の四角柱の体積を求める問題の復習を行う。</p>
	面積(m ²)	人数(人)													
1号機	6	18													
2号機	6	16													
3号機	5	16													
			ひろげる 10分												

考える
10分

- ・ 個人で考える。
- ・ 図や式で考え、ノートに書く。

予想される考え

考え① 図で比べる。



答え 3号機のほうが混んでいる。

考え② 1㎡あたり的人数で比べる。

1号機 $18 \div 6 = 3$
 3号機 $16 \div 5 = 3.2$

答え 3号機のほうが混んでいる。

考え③ 1人あたりの面積で比べる。

1号機 $6 \div 18 = 0.333\dots$
 3号機 $5 \div 16 = 0.3125$

答え 3号機のほうが混んでいる。

考え④ 面積を30㎡にそろえて比べる。

【5と6の最小公倍数の30の利用】

1号機	面積	$6 \times 5 = 30$	
	人数	$18 \times 5 = 90$	90人
3号機	面積	$5 \times 6 = 30$	
	人数	$16 \times 6 = 96$	96人

答え 3号機のほうが混んでいる。

考え④ 人数を144人にそろえて比べる。

【16と18最小公倍数の144の利用】

1号機	人数	$18 \times 8 = 144$	144人
	面積	$6 \times 8 = 48$	48㎡
3号機	人数	$16 \times 9 = 144$	144人
	面積	$5 \times 9 = 45$	45㎡

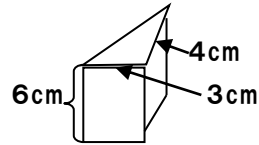
答え 3号機のほうが混んでいる。

・ 考えが思い浮かばない子のためにヒントカードを用意し、思考を促す。

・ 問題の提示

・ 問題をノートに書く。

問題 三角柱の体積を求めましょう。



【仮説1】

・ 間接指導時に、学習活動への意欲が持続できるように、直接指導時には、図や教具などを活用しながら、課題解決の見通しを持たせる

● 三角柱って、どんな立体でしたか。
 ・ 三角柱の具体物を見せる。

● この三角柱の高さは何cmですか

● どうしてそう思ったの。

● 4cmではないですか？

・ 体積とはもともと1cm³の立方体を何個分あるかという定義を想起させる。

● 三角柱の高さは1cm³の立方体を何個分積み上げているかな。

・ 三角柱とはどのような立体か既習事項を想起する

「底面積が三角形の角柱です。」

「6cmです。」

「底面積が三角形なので、そこに垂直な辺が高さだと思ったからです。」

「そこは、三角形の高さです。」

「6個分です。」

課題 三角柱の体積の求め方を考えましょう。

● 三角柱の体積の求め方を考えましょう。

● 今までを習ったことを使って求められないかな？

つかむ

10分

<p>まとめる 15分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・班の中で考えを交流する ・ミニホワイトボードに班の考えを書く。 ・班ごとに発表する。 ・式・答えを確認する。 	<p>【仮説2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で考えた意見を班で交流したり、ホワイトボードにまとめて学年全体で交流したりする場面を設ける。 ・班で発表する時には、図や式などを使い、相手にわかりやすく伝える意識を持たせる。 <p>★混みぐあいの比べ方を、単位面積あたりや、1人あたりの大きさの考えなどを用いて考えている。(数学的な考え方)</p>	<p>【仮説1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間接指導時にも小わたりを取り入れながら、自学自習での学習活動への意欲を持続させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で考える。 ・三角柱の体積の求め方の式とその理由を個人で考える 	<p>考える 15分</p>
<p>まとめ こみぐあいは、1mあたりなど単位量あたりの大きさを比べることができる。</p>		<p>予想される考え</p> <p>求め方①三角形の面積を求めて、高さをかけた。 ・ $3 \times 4 \div 2 \times 6 = 36$ 答え 36cm^3</p> <p>求め方②三角柱を2つ組み合わせて四角柱にして求めた。 ・ $4 \times 3 \times 6 \div 2 = 36$ 答え 36cm^3</p> <p>求め方③三角柱を2つ組み合わせて四角柱にして 1cm^3 の立方体を何個分積み上げたか考え2で割って求めた。 ・ $4 \times 3 \times 6 \div 2 = 36$ 答え 36cm^3</p> <p>求め方④三角柱を横に切り、2つ組み合わせて四角柱にして求めた。 ・ $6 \div 2 = 3$ $3 \times 3 \times 4 = 36$ 答え 36cm^3</p>			
<p>ひろげる 10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書p97の「☆5たしかめ」の問題を解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書p97の「☆5たしかめ」の問題を解かせる。 <p>★混みぐあいの比べ方や表し方を理解している。(知識・理解)</p>	<p>【仮説2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを立体の模型やホワイトボードを使って相手にわかりやすく伝える場面を設ける。 ・相手の意見を聞き、自分の考えとの違いや自分の考えが深まるような姿勢を促していく。 <p>★三角柱の体積の求め方を前時の学習をもとに考え、公式を導きだしていたか。(数学的な考え方)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●どの式でも共通していることは何かな？ ●どの考え方も底面積に高さをかけて求めていませぬ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニホワイトボードに自分の考えを書く。 ・一人ずつホワイトボードを使いながら発表する。 <p>「÷2があります。」</p> <p>答え 答え 36cm^3</p>	<p>まとめる 10分</p>
<p>まとめ 三角柱の体積＝底面積×高さ</p>		<p>★角柱の体積の公式を理解していたか。(知識・理解)</p>			

(4) 個人の実態と支援・座席表

黒 板

	児童 A	児童 B
実態	算数に苦手意識をもっており、個別の支援が必要である。一生懸命問題を解こうとする姿勢は見られる。直方体の体積を求める時に、立式で間違えることがある。計算やノートに字を書くことにはやや時間がかかる。発表する時には声が小さくなりやすい。	算数に苦手意識をもっている。単元によっては、定着がしっかりできており、計算も素早く行うことができる。立方体や直方体の体積は求めることができる。緊張すると、声が小さくなり、発表の時にノートを持っている場合は、ノートで顔が隠れることがある。
支援	問題提示から課題までの場面で三角柱の定義や直方体などの立体を想起させて、課題解決につなげていく。個人思考では、ヒントカードなども活用させながら、自分の考えがもてるようにする。	直接指導での問題提示から課題までの場面で、発問しながら、声を出させ、緊張を和らげていく。また、その場面で既習事項も想起させて、課題解決への見通しを持たせるようにする。

	児童 F	児童 C
実態	小数のわり算などの計算は定着している。計算も素早く計算することができる。課題に対する自分の考えを書くことには、やや時間がかかる。友達からの助言で、理解が進むこともある。課題に対して前向きに臨むことができる。	柔軟な発想力を発揮することがある。算数に苦手意識をもっており個別の支援が必要である。ノートの書き方、定規の使い方などもまだ定着していない。小数のわり算では、計算できない問題もある。
支援	問題から課題提示までで混みぐあいについて理解させ、課題解決の時に自分の考えがもてるようにする。また、個人思考のときにヒントカードなども活用させていく。	まずは、課題解決への見通しが持てるように直接指導で自分なりの言葉を引き出すようにする。また、個人思考の時には、ヒントカードなどを準備し、課題解決に向けて意欲が持続できるようにする。集団解決の時には、自分の考えを発表できるように助言をする。

	児童 G	児童 D
実態	理解力が高く、算数の学習内容もほぼ定着している。緊張することもあるが、積極的に自分の考えをしっかりと述べることができる。近くの級友にも自分の考えをわかりやすく教える場面も見られる。	整数や小数のわり算は定着している。割りきれない小数のわり算の答えを概数にするときに間違えることがある。課題を解決しようとして一生懸命考える姿勢が見られる。手順の多い計算には消極的である。
支援	緊張せずに、普段と同じように積極的に発言できるように支援していく。リーダー性が発揮できた時、考えが発表できたときにはしっかり褒めていく。	直接指導で、本時の課題をしっかりとつかみ、課題解決に向けて見通しがもてるようにしていく。班で考えを交流する場面では、しっかり発表できるように指導する。

		児童 E
実態		算数の学習内容はほぼ定着しているが、小数のわり算などで小数点のつけ忘れなどが見られる。ノート作りは、定着していない面がある。気分によって課題に対してむらが見られる。理解力は高い。
支援		導入の直接指導では、具体的な場面が想起できるようにして、課題解決に向けて意欲を高めていく。個人思考の場面では、思考が停滞したときにヒントカードを活用して、意欲が持続できるようにする。

黒 板